

令和 2 年 6 月 23 日

# 大豆情報 第 1 号

J A む な か た  
北筑前普及指導センター

～7月20日までに播種を終わらせましょう～

6月下旬から播種準備を整えて、7月上旬から天気を見計らって適期播種を行ってください。  
6月11日に梅雨入りしており、福岡管区气象台が6月18日発表の1か月予報は下の表のとおりです。大豆の播種適期に当たる7月上旬～中旬にかけては、降雨日が多くなると予想されています。播種の前に、できるだけ周囲溝を設置し、あらかじめ排水口とつなげておきましょう。

(1 週目) 6/20～26	(2 週目) 6/27～7/3	(3～4 週目) 7/4～17
前線や湿った空気の影響を受ける日もありますが、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。	前線や湿った空気の影響を受けにくく、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

大豆栽培では、「適期に播種」することが重要です！ 「フクユタカ」の播種適期は7月中旬ですが、圃場の状態を見て、播種できる圃場では7月上旬に播種ができるよう、機械の点検、種子消毒などの準備をしておきましょう。

速やかに播種するためには、部分浅耕一工程播種を行うか、これから耕起する場合は、播種直前に行うようにしましょう。また、播種直後の冠水による出芽不良を避けるため、排水の良いほ場から順に播種するようにし、大雨が予想される場合は、降雨の1日前には播種を中断してください。冠水した圃場は、できるだけ早い排水をこころがけましょう。

## 1. 土づくりと施肥

★土づくりと施肥体系の見直しによって、高品質・高収量の大豆づくりをめざしましょう。  
★問題点・・・JAむなかた管内の土壌では、有効態リン酸、カリ及び腐植（有機物）が少ない傾向。

### ★対 策

- ①堆肥の施用、わらすき込みなどにより、根粒菌の活性化や地力向上を図りましょう。
- ②PKC30号(30kg/10a)または塩化カリ(15kg/10a)や粒状ようりん(20kg/10a)の施用により、リン酸とカリウムの供給に努めましょう。
- ③地力の低下しているほ場や、遅まきほ場では、大豆化成550(30kg/10a)を使用して下さい。

## 2. 播種

	播種時期	条間	株間	10a 当り播種量	播種深度
早播	7月 1日～10日	70cm	25cm	3kg	● <b>基準 3cm</b> 土壌水分が多い
適期播	7月 11日～20日	70cm	20～15cm	4～6kg	→ <b>浅く</b> 土壌水分が少ない
遅播	7月 21日～31日	70～50cm	15cm	8kg	→ <b>やや深く</b> (5～6cm)+鎮圧

## 3. 種子消毒

キヒゲン 乾燥種子重量の1%粉衣（種子10kgに薬剤100g）  
 キヒゲンR-2フロアブル 乾燥種子重量の2%塗沫（種子10kgに薬剤200ml）

## 4. 雑草防除

### ★ホソアオゲイトウ、ハウズキ多発圃場の防除体系例

大豆播種後出芽前 (7月上中旬)      大豆2～4葉期 (7月下～8月上)      大豆3～5葉期 (8月上中旬)      大豆6～8葉期 (8月中旬)

ラクサー +フルミオ 土壤処理全面散布	アタックショット乳剤  ※茎葉全面散布	中耕・培土	バスタ液剤  畝間散布
---------------------------	---------------------------	-------	-------------------

※ アタックショット乳剤は散布後、必ず薬害（一過性の葉の黄化症状）が発生

### ★アサガオ類多発圃場の防除例

大豆播種後出芽前 (7月上中旬)      大豆2葉期 (7月下旬)      大豆3～5葉期 (8月上中旬)      大豆6～8葉期 (8月中旬)

サターンバアロ +フルミオ 土壤処理全面散布	大豆バサグラン液剤  ※茎葉全面散布	中耕・培土	バスタ液剤  畝間散布
------------------------------	--------------------------	-------	-------------------

◎使用薬量、使用時期等は、こよみを参考にしてください。

◎稲に対する薬害があるので、水田に隣接している場合は飛散に注意して下さい。

クリアターン乳剤は、できるだけ播種当日に散布をし、遅くならないように注意して下さい。

## 5. ネキリムシ類の防除

夜に幼虫が地表に現れ、大豆幼根を地表付近で切断します。

〔対策〕: ネキリエースKを播種時～本葉2葉期に10a当たり3kg土壤表面株元処理します。

※誘引殺虫剤なので被害が発生してから散布して下さい。

**施肥、生育期除草剤等については、大豆こよみを参照下さい。**